

## 「第 22 回水戸納豆早食い世界大会」実施要項

- (1) 期 日 令和 8 年 7 月 12 日 (日)
- (2) 会 場 水戸市民会館やぐら広場
- (3) 時 間 10 : 20 ~ 13 : 00 ※「水戸の納豆納涼祭 2026」10 : 00 ~ 14 : 00
- (4) 審 査 予選・決勝ともにタイムレース  
男性の部・女性の部共に予選上位通過者 10 名が決勝に進み、決勝で 1 位 ~ 10 位を決定
- (5) 納豆の量 **【予選】**  
男性の部 : 納豆 270 g (納豆 90 g × 3 個) ※前回は 360 g  
女性の部 : 納豆 240 g (納豆 80 g × 3 個) ※前回は 270 g  
**【決勝】**  
男性の部 : わらつと納豆 350 g (70 g × 5 本)  
女性の部 : わらつと納豆 210 g (70 g × 3 本)
- (6) 褒 賞 男性の部・女性の部共に 1 位 ~ 10 位 賞状および納豆グッズ等の賞品を贈呈
- (7) 応募資格 20 歳以上の方
- (8) 募集人員 150 名 (予定)
- (9) 参加料 一人 2,000 円
- (10) 応募期間 令和 8 年 6 月 10 日 (水) ~ 6 月 17 日 (水)  
応募者数が定員に達した場合は抽選となります (先着順ではありません)
- (11) 応募方法 事務局が指定する応募フォームに必要事項を入力し応募してください。  
入力内容に虚偽や誤りがあった場合は失格となる場合があります。  
複数名で応募する場合には、お手数でもおひとり分ずつ入力・送信をお願いいたします。  
※出場当選者には、6 月下旬に本人宛にメールで通知をお送りいたします。参加料のお支払い方法についても記載いたしますので、忘れずにご確認ください。  
※参加料のお支払いが確認できない場合は失格とさせていただきます。
- (12) 参加賞 出場した選手に納豆スナックをプレゼント
- (13) 申込み先 (一社) 水戸観光コンベンション協会 水戸納豆早食い世界大会 係  
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-5-38 茨城県三の丸庁舎 1 階  
電話 029-224-0441 / F A X 029-224-0442
- (14) 備 考 本要項は変更となる場合がありますので、予めご了承ください。

## 「水戸納豆早食い世界大会」審査方法

### 【予 選】

- 1 競技は1組約10名で行い、選手が食べる早さを競い、上位10名が決勝に進出する。
- 2 タイム計測は、審査員がストップウォッチを用いて行う。スタート合図は司会者が行うものし、合図と同時にストップウォッチを押す。選手は、司会者の合図により食べ始めるものとし、フライングした選手は失格とする。
- 3 予選の制限時間は、男性の部は2分、女性の部は3分とする。
- 4 予選での食べ物は、男性の部は「納豆270グラム（納豆90g×3パック）」、女性の部は「納豆240グラム（納豆80g×3パック）」とする。
- 5 用いる食べ物は、係員が事前に納豆にタレをかけた状態で提供する。なお、カラシは入れないものとする。
- 6 食べ終わった選手は、素早く挙手する。納豆パックが空になっていれば、口の中に入れていても（すべて飲み込んでいなくても）良いものとする。
- 7 審査員は、選手が挙手した時点でストップウォッチを止め、時間を計測し、予選での記録とする。ただし、審査員が容器の中が空かどうか確認した際に、机や体、箸等に、納豆が一粒でも残っていた場合は、いくら食べる時間が早くても失格とする。

### 【決 勝】

- 1 男性の部は、予選通過上位10名で決勝戦を行い、1位～10位を決定する。女性の部は、予選通過上位10名で決勝戦を行い、1位～3位を決定する。
- 2 タイム計測は、審査員がストップウォッチを用いて行う。スタート合図は司会者が行うものし、合図と同時にストップウォッチを押す。選手は、司会者の合図により食べ始めるものとし、フライングした選手は失格とする。
- 3 決勝は、時間制限を設けないものとする。
- 4 決勝での食べ物は、男性の部は「わらつと納豆350グラム（70g×5本分）」、女性の部は「わらつと納豆210グラム（70g×3本分）」とする。
- 5 用いる食べ物は、決勝実施に先立ち、選手自身が、用意されているわらつと納豆5本（女性の部は3本）の中から納豆を一粒残さず器に移し、かき混ぜておくものとする。なお、選手の判断により、納豆にタレ及びからし各5個（女性の部は各3個）を入れることができる。
- 6 選手全員の準備が完了後、司会のスタート合図により納豆を食べ始める。
- 7 食べ終わった選手は、素早くどんぶりを頭上へ掲げる。どんぶりの中が空になっていれば、口の中に入れていても（すべて飲み込んでいなくても）良いものとする。
- 8 審査員は、選手がどんぶりを上げた時点でストップウォッチを止め、時間を計測し、予選での記録とする。ただし、審査員がどんぶりの中が空かどうか確認した際に、机や体、箸等に、納豆やご飯が一粒でも残っていた場合は、いくら食べる時間が早くても失格とする。